

私立大学研究ブランディング事業

29年度の進捗状況

学校法人番号	181001	学校法人名	金井学園		
大学名	福井工業大学				
事業名	「宇宙」事業推進のために地域と協働する“ふくいPHOENIXプロジェクト”				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	2080人
参画組織	地域連携研究推進センター・工学部・環境情報学部・スポーツ健康科学部				
事業概要	<p>◆本学は、北陸最大の直径10mパラボナアンテナ等を備え、「宇宙」利用研究をブランドとしてきている。また、地域の多くの自治体と連携協定を締結するなどして、地域と協働した多くの活動を行っている。一方、福井県内では平成32年度の県民衛星打ち上げを目標に衛星開発計画が推進されるとともに、福井駅前に「宇宙」をテーマとする大型施設が建設され、親子連れなどで賑わっている。このような背景から、本学は地域と連携しながら、本事業によって「宇宙」に関するブランド力を向上することにより、地域での「宇宙」を基盤とする産業育成、観光・文化の振興に繋げる。</p>				
①事業目的	<p>本学がこれまでに培ってきた「衛星情報活用研究」と本学の特徴である「地域貢献」活動を、本事業を通して更に発展させる。具体的には、(A)衛星利用研究基盤を活用・発展させ、宇宙関連研究の独自性を明確に打ち出す。(B)地域の観光・文化の目玉として宇宙を取り入れる。(C)新しい地域産業として宇宙関連産業の育成を図り、縦横断的に地域活性化の方策を導く。これら(A)(B)(C)の3つの研究を軸とした本学のブランドを確立する。</p>				
②29年度の実施目標及び実施計画	<p>上記(A)(B)(C)の各研究軸と、ブランディングのための広報活動の目標及び計画を以下に示す。</p> <p>(A)宇宙研究軸 (目標:①超小型衛星開発の環境を整備する。②衛星地上局の整備運用を行う。計画:①平成29年10月を目途に衛星の基本設計を行い、衛星部材の発注および平成30年3月中の納品を行うとともに、衛星に県産部材の搭載を検討する。②あわらキャンパスにコマンド送信局を設置、東北大学の超小型衛星の運用協力を実施する。)</p> <p>(B)観光文化研究軸 (目標:①宇宙関連地域資源の価値を明らかにする。②宇宙関連施設・他の地域資源との連携イベントを実施する。③観光・都市戦略における課題解決法を提案する。計画:①宇宙・星空をテーマとした研究方針をかため、研究対象とする福井県内の地域を選定する。また、「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」において、夜空の暗さ計測を実施する。②セーレンプラネットやエンゼルランドなどの宇宙関連施設における展示コンテンツを制作する。また、地域活動の先行的取り組みとして「勝山市北谷町小原集落」において地域資源を活用した星空観光ツアーを学内向けに実施する。③外部専門機関を招聘して地域経済活性化に関する勉強会を開催する。)</p> <p>(C)地域振興研究軸 (目標:①衛星データによる地域環境情報の配信を開始する。②自治体/企業/大学/高専等との共同研究を開始する。計画:①あわらキャンパスの衛星受信システムの管理・保全と衛星データの情報の発信を行う。②関係機関との打合せを実施し、地域連携・共同研究のテーマを決定するため、各研究が衛星データから得られる配信コンテンツから研究を展開するための準備を実施する。また、各研究の内容を構成員が把握し、共同で研究を展開するためのアイデアソンを実施することを目指す。)</p> <p>ブランディングの広報など (目標:①地域社会(自治体・企業・大学・高専・県民)での認知度の向上を図る。計画:①超小型衛星開発現場および本学あわらキャンパス衛星地上局システムを公開する。②福井工大公開講座・大学連携センター講座を実施する。③日本ボーイスカウト福井連盟キャンプにおいて星空観測会を実施する。平成30年3月セーレンプラネット/エンゼルランドにおいて超小型衛星模型を展示する。平成30年3月外部評価委員会で年度成果を報告する。)</p>				

<p>③29年度の事業成果</p>	<p>上記(A)(B)(C)の各研究軸と、ブランディングのための広報活動に関する事業成果を以下に示す。</p> <p>(A)宇宙研究軸 (①衛星仕様が決定し、機器の購入および製作に取り掛かることができた。一方、県産部材の搭載については今後の課題として残された。②福井キャンパスでの送信局設置およびあわらキャンパスの10mパラボラアンテナシステムの修繕について見込みが付いた。一方で東北大学の超小型衛星の運用協力は次年度に実施することとなった。)</p> <p>(B)観光文化研究軸 (①宇宙・星空をテーマとした研究方針をかため、研究対象とする福井県内の地域を選定した。また、「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」から立ち上がった研究グループ「ほしのちらぽ」にて、夜空の暗さ計測を実施した。②セーレンプラネットをはじめとする県内の宇宙関連施設における展示コンテンツを制作した。地域活動の先行的取り組みとして「勝山市北谷町小原集落」にて地域資源を活用した星空観光ツアーを学内向けに実施した。③外部専門機関を招聘して地域経済活性化に関する勉強会を開催した。)</p> <p>(C)地域振興研究軸 (①あわらキャンパスの衛星受信システムの管理・保全と衛星データの情報の発信を行った。②関係機関との打合せを実施し、地域連携・共同研究のテーマを決定するため、各研究が衛星データから得られる配信コンテンツから研究を展開するための準備を実施した。また、各研究の内容を構成員が把握し、共同で研究を展開するためのアイデアソンを実施した。)</p> <p>ブランディングの取組 (平成29年7月に超小型衛星開発現場および本学あわらキャンパス衛星地上局システムを一般公開した。平成29年7月・11月に福井工大公開講座・大学連携センター講座を実施した。平成29年8月日本ボーイスカウト福井連盟によるキャンプ、平成30年3月セーレンプラネット/エンゼルランドにおける超小型人工衛星模型展示、平成30年3月外部評価委員会を実施した。)</p>
<p>④29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>平成30年4月10日に開催した自己評価委員会(評価者:6名)による評価結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度実施予定の事業がほぼ実施されている点は評価できる。但し、予定事業の実施による成果・効果の検証は十分とはいえない。今後、事業の成果を客観的・数値的に評価し、研究内容・方法等の見直しを図っていくことが必要である。 ・本事業が宇宙研究、観光文化研究、地域振興研究の3つの研究軸とブランディングという幅広い課題に多くの教員が関与しているため、現状、各教員間及び3つの研究軸間の関係あるいは連携・協働が不十分である。個々の研究の寄せ集めとなることなく、事業全体を戦略的に展開していくことが必要である。 ・事業目的にかなう実施可能な範囲や項目を再検討し、無理なく活動を進め、成果を挙げることが必要である。また、一部退職者の発生が事業の進捗に影響しないようにする必要がある。 <p>(外部評価)</p> <p>平成30年3月19日に本学にて外部評価委員会を開催した。また、当日欠席の委員には、別途、成果を説明して評価を受けた。これら総勢6名の評価者による結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画にある取組については、中間での見直しを含め十分なマネジメントのもとで進められていると思う。 ・様々な企業や大学研究者との融合により、新しい価値創造に挑戦することが期待される。地域とともに進めていけるようお願いします。 ・事業推進の中で、その都度課題を解決すべく必要な計画修正を加えながら適切な進行管理がなされており、地域自治体との共存共栄を図るという基本コンセプトも一貫しており、高く評価できる。 ・(A)宇宙研究軸については、超小型人工衛星の1号機打上げ時期は1年遅くなったがミッションと基本諸元が固まり、30年度製作となり順調である。2号機については、県民衛星プロジェクトと連携し今後、福井県産部材の活用、組立て、評価などで協力を検討していきたい。 ・(B)観光文化研究軸については、対象地域選定、暗さ計測も行えており今後の成果に期待する。 ・(C)地域振興研究軸については、衛星データ活用による地域振興の検討等が順調に行われており評価できる。
<p>⑤29年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成29年度は予算額¥80,370,000円に対して、¥80,336,966円を執行した。 なお、事務局である地域連携研究推進センター・社会連携推進課において、補助金の支出を厳正に管理している。</p>